

コロナの時代に生きて

2020年、まさかこんなことが起きようとは
 いったい誰が予想したでしょうか。
 多分、今人類はかなり手強い敵と戦いを続けています。
 コロナウイルスは一見強力でもなさそうな仮面の下に
 恐ろしい程の伝染力、伝播力、進化力を持っています。
 まだまだ出会ったばかりの敵で
 人類はまだしつかりとした戦い方を見つけていません。

そんな時、何が大切か？
 それは個人個人の対応力と
 生きる気力ではないかと思えます。
 このコロナ禍にあつて
 同窓の皆様は、何を考え
 どのように過ごしてこられたのか。
 いろんな分野の方に、ご依頼申し上げ
 それぞれのコロナとの戦いや生き方を語って頂きました。

負けない！前を向いて頑張る！
 一人ではない
 共に歩んで行きましょう！

コロナ感染の広がるこの時期に、この同窓会誌を出す意味はどこにあるのだろうか？学校も休校を余儀なくされ、同窓会の会議も行えず、各支部の総会も殆どすべて中止となりました。
 載せるニュースは、殆ど中止のお知らせ。それでも、発行するからには、同窓の皆様が少しでも勇気を持てるような内容にしていきたい、と願っています。
 出来るだけ多くの分野の同窓会員にそれぞれの場所でのように感じ考え行動し、コロナのこの時期を生きているかを伺うことになりました。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|--|---|--|
| 
13 アスリート
日本相模協会 水瀬部員
宇良 和輝さん
2015～H27年
教育学部卒 | 
12 演劇
兵庫県立マリン公園劇団
森 万紀さん
1997～H9年
文学部卒 | 
11 教育
関西学院中学位
部長
藤原 康洋さん
1981～S56年
経済学部卒 | 
10 ベンチャー
岡本 泰彦さん
1985～S60年
法学部卒 | 
09 SDGs
関西学院大学
SDGs・
生物多様性研究センター
教育学部教授
湊 秋作さん
特別会員 | 
08 介護
ボランティア 看護士 介護グループ
伊丹谷 五郎さん
1969～S44年
経済学部卒 | 
07 医療
獨協医科大学 准教授
中島 逸男さん
1986～S61年
高等部卒 | 
06 音楽
西播磨文楽楽団代表
小田 英夫さん
1980～S55年
法学部卒 | 
05 観光
料理旅館 白梅7代目女将
奥田 朋子さん
1989～H1年
社会学部卒 | 
04 流通
京阪ホールディングス株式会社
取締役常務執行役員
上野 正哉さん
1982～S57年
経済学部卒 | 
03 芸能
芸人 銀シタリ
橋本 直さん
2003～H15年
経済学部卒 | 
02 スポーツ
ミナミ株式会社
代表取締役社長
水野 明人さん
1976～S51年
高等部卒 | 
01 文学
小説家
原田 マハさん
1985～S60年
文学部卒 |
|---|--|---|--|---|---|---|--|---|---|--|---|--|

小説家
原田 マハ さん
1985(S60)年
文学部卒
01

2005年「カフーを待ちわびて」で
第1回日本ラプストリー大賞を受賞
2012年「楽園のカンヴァス」で
第25回山本周五賞を受賞

ソーシャルディスタンスは 「あなたを思っているよ」 という温かな距離のこと。

トッパッターには、今最も旬な作家の原田マハさんをお願いしました。30分の電話インタビューを許可いただき、同窓生として、作家として、マハさんから大きな温かなメッセージを頂きました。

「関学との関わり」

高校まで岡山で過ごしました。神戸の街に憧れていたのに、父に連れられて神戸周辺の大学を見て歩きました。その時に、関西学院があり、海外の大学のような開放感のあるキャンパス風景に非常に引きこまれたのを覚えています。どちらかというと、何を学ぶとか、校風よりも風景に魅せられたのが先でした。その後、キリスト教精神に基づき広く学びの門戸を開くという、大学のポリシーにも惹かれましたし、京阪神を拠点として外国の文学を学びたい思いもあって、関学を選びました。

最初は上ヶ原にある学生長屋みたいな女生生専用のアパートの1部屋に2年間住んで、それから西宮北口にあるアパートに、岡山から来た友人と部屋をシェア

して住んでいました。

当時はバブルの頃でしたが、うちの家庭は全然逆で貧乏学生でした。関学の学生さんは裕福な方が多くて、学生生活を謳歌しておられたのですが、我が家の経済事情が非常に良くなかったんで、その中でかなり無理をさせてきました。アルバイトを掛け持ちして、仕送りもほぼなしで、自活してきました。それでも関学に通っていること自体が、憧れの中で生きているんだと何度も自分に言い聞かせてました。

関学卒業後東京で色んな人との出会いを重ねて美術との関わりを深められたわけでしょうか。

実は関学にいる時にも、京阪神の展覧会にはかなり頻りに行きましたし、図書館で画集を借りたり、生協で「楽園のカンヴァス」の元になったアンリ・ルソーの評伝にも出合いました。学生時代に、美術との重要な出会いがあつて、美術に関する仕事をしたという思いは、最初からぶれずにもちつづけていました。早い

段階で心に思い描いていた夢のようなものは、ずっと自分の中で燃やし続けて、時間はかかったけれど、気が付けば、それを実現してたな...という感じですね。マハさんと言えば、やはり画家や美術に関わる人達を題材にした作品が大きな持ち味ですね。

長いこと憧れていたのはピカソでした。子供の頃に大原美術館で出合ってから、自分の中のライバルのような存在で、何かピカソを越えて行かないと...みたいな思いがあつて、いつも励まされているような、今なお自分の人生を導いてくれる人。ルソーは学生時代に画集を通じて出合つて、ピカソとなくギクシヤクした、ヘタウマみたいな感じなのに、何か人の心を捉えてやまないような魅力がありました。ずっと心の友のような存在で、いつかこのことを書きたいとの思いを抱き続けて、その思いを「楽園のカンヴァス」という小説にしました。

あとは、ゴッホ。いつか自分の創作の中で一緒に何かしてみたい。自分の気持ちとして、アートはほとんど生きてる友と思つています。自分だけでなく、人に感染させることを避けようという思いで、公の場で話をしない、マスクをするという新しい生活様式を取り込むことを、この数年の間にみんな学びました。

ソーシャルディスタンスなんですけど、「あなたの事を思っているよ」という温かな距離だと私は思っています。自分で距離を取るといふことは、あなたを守っている意味だと思ふんですよ。距離を取れない一極集中の都市の状況も、リモートワークが当然になってくれば満員の通勤電車でもオフィスに通う必要がない時代が来ると思っています。キャンパスにも、リモート講義が定着すれば、大学のあり方が変わってくるかもしれませんね。

「作家としてできること」

自宅は今、長野県にあるのですが、2ヶ月間ほぼ誰にも会わずに、ずっと一人の時間を続けていました。色んな事を見直す時間になりましたね。仕事に支障はなく、むしろ心静かに自分の仕事と向き合ういいチャンスになりました。それでも、世の中の動きはいつも見えていましたし、この厄災も世界中で起こっている事で、世界中の人達とこの時期をどう乗り越えていけるかを、一緒に考えて、一緒に乗り越えていくという思いがありました。実際には周りには誰もいないんだけど、心理的な世界との距離感はその近く近かった。この時期が、



パリにて2018年

達みたいな感覚なんです。

「パリでコロナに会う」

3月17日にフランスのロックダウン宣言があつて、ちょうどその時パリにいたんです。30日には帰る予定だったんですが、飛行機がキャンセルされ、街中には人影も全く消えてしまった状況でした。

パリでは実際に医療崩壊が起つていましたから、何処か知らない病院に連れていかれたら、そのまま命を落としてしまいかねないというリアルな恐怖心がありました。自分で責任の取れない所に居てはだめだなと思つたので、これは帰国した方がいいだろうと決心して、帰ってきました。緊急事態宣言の出る直前、4月2日に日本に着いたのですが、感染者数のピークの時に帰ってきたんですね。その3日は前から、帰国者、入国者全員にPCR検査を義務付ける節目の時、それまでは入国者は体調申告するだけだったようです。政府が、3月の頭から水際対策を打つ

ていたら、状況はもつと変わつていて、助かる命もあったかもしれないと思ひました。帰国者に対するパッシングもあり、帰るか帰るまいかは大きな決断でした。帰つても迷惑をかけるかもしれない、でもフランスに残つても迷惑をかけるかも。最後は帰つてくることをチョイスしたのも、自分で責任を取らなければという決断でした。

「コロナ中の生き方」

コロナ感染が確認されてから、約5ヶ月経ちましたけど、その間私達は多くの事を学びました。

欧米ではロックダウンとか強制力のあつたことを実施しなければ、どうしても人々を抑え込むことができなくて、かな

り強硬にやつた部分はあつたと思うので、すね。そういうルールがあり、保障もセツトにして雇用を確保するというところで、国民を安心させた政策を各国が打つて来たと思うんです。日本の場合、かなり政策が後手後手に回つた感はあるし、ひとえに私達国民一人一人が、自粛という言葉一つで、ここまで自分達を律して移動を制限したり、ステイホームをやり遂げた事とかは、他の国ではなかなかありえない事ですね。日本の国民性というしかないかもしれないませんが、何かその言葉を口にした途端に政府が乗っかって来る気がします。

「日本人の思いやり」

日本人は非常に思いやりが強い国民だ

忙しいとか仕事に追われていた人達が、自分の時間や生き方を見直す時間ができ、自分の時間を見つめるためにどうしたらいいのかを考えられた事。通勤時間、勤務時間を考え直して、時間や環境に余裕ができた。やりがいや、将来の夢をまだまだ取り戻せると感じた人もいるのではないだろうか。

「コロナの中で生まれたもの」

作家として何かできることがあるとすれば、この時代は何だったのか、後になつて振り返った時に、あの時こんなことがあつた、こういう風に自分は行動した、自分はこういう風に考えていたんだと思いたしてもらえないように、文章に残すことだと思つています。

パリにいた時からツイッターで短い小説を書き、リアルタイムにずっと更新して18日間連載しました。フランス語版、英語版を作つて、今世界中の人達が同じ状況にあることを、読者に共有していただきたいと思います。



© 森 榮喜

ミズノ株式会社
代表取締役社長

水野 明人 さん

1976(S51)年
商学部卒

02

コロナ禍によって、 コンタクトがなくて楽しいスポーツの開発、 提案などもやっていく必要があるかもしれないね。

2021年に創業115周年を迎えるミズノ株式会社。長い歴史の中、スポーツ振興に力を注ぎ、スポーツ業界を牽引してきた会社の代表取締役社長である水野明人氏に、コロナ禍によってスポーツ業界が受けた影響と今後についてお話を伺いました。

コロナ禍がスポーツ業界に与えた影響を教えてください。

不要不急の外出を控えるという自粛生活と、コロナという未知の感染症の恐怖で、人は全く動けなくなりました。そうすると経済が動かない、お金が回

らないという状態で、経済が全般的に落ちこんでいますよね。日本のみならず、世界全体の経済が落ち込んでいる状況下で、業界的にも大変厳しい。我々スポーツ業界も全てのスポーツが止まってしまっ、それなりの厳しさがあります。平時でないとスポーツは盛んにならないです。行うことができない苦しさを経験しました。

その後、果ごもりによってコロナ太りや運動不足という大きな問題ができてきました。運動不足を解消するために散歩やランニング、家でトレーニングされる人も増え、体を動かしたい需要が出てきたように感じますね。

そういう社会の需要に対して何か動きはありましたか。

スポーツメーカーとしては、体を動かしたい、楽しみたいという思いを持っていて、特に子どもたちが休校で動けず、家で持て余しているエネルギーを消費してほしいとの思いから、あそびの中に運動を取り入れた「ミズノあそびのレシピ」というプログラムをコロナ禍で新たに開発し発信

しました。

このミズノあそびのレシピは、我々が開発したヘキサスロンというプログラムを核としています。ヘキサスロンは、子どもの運動能力低下が問題視されるなか、スポーツを体験したことがない子どもや運動が苦手な子どもでも「走る」「投げる」「跳ぶ」などの基本動作を自然と身につけられるプログラムです。そのヘキサスロン事業に賛同していただいたのがベトナムで、初等義務教育の体育教育のガイドラインに2018年から採用されています。引き続き、ベトナム全土の公立小学校への普及も進めていますし、日本でもモデルケースとしていくつかの学校で動いています。



ミズノあそびのレシピ

あそびのレシピホームページ



コロナ後、スポーツをする環境はどのように変わるでしょうか。

コロナ禍によって一般の人のスポーツに対する価値観が変わってくるのではないかと思います。トップレベルのパフォーマンスで感動や勇気を与えることは、スポーツの役割の一つですが、コロナ禍で体が動かせず、自然発生的な体を動かしたというニーズに応える新しいスポーツの開発、提案なども行っていく必要があるかもしれませんね。コンタクト（接触）のあるスポーツは今まで通りというわけにはいきませんが、健康を保ち、身近に楽しくできるスポーツが必要でしょうね。既に「ゆるスポーツ」というのがあって、勝ち負けがついてゲーム性もありますが、技量に関係なく、みんなが参加しやすいのが特徴です。例えば、激しく動かすと大声で泣き出してしまったり特殊なボールを使った「ペーパーパス」では、泣かせないようにとパスをして、そとキャッチするような今までのスポーツとは全く違う楽しみ方です。若者から高齢者まで

誰でも参加できるようになっていて、ハードルが低いスポーツです。

トレーニングもリモートでされる方が増えてきましたね。

リモートを使ったやり方は、コロナ禍がなかったら出てこなかったことかもしれません。今までは、出かけて行って指導を受けてきましたが、わざわざ行かなくてもいいなと思う人が出てきています。家でトレーニングできる器具も今後はまだまだ商機があるのかなと思っています。我々も以前からインテリアに馴染むデザインで、座りながらスクワットできる椅子や座つてもたれかかるだけで腹筋運動になるトレーニンググッズを作ってきました。コロナ禍で、果ごもり需要が高まったので、そういう商品やプログラムを探していただきましたようにホームページを整えました。今後、コロナが収束してもテレワークは続き、家で体を動かす需要は増えていくのではないかと思います。体の動かし方が今までは違ってくるかもしれないね。

2022年度中に新しくできる研究開発拠点と今後について教えてください。

2022年度中には、新しい研究開発拠点がスタートします。「測る・創る・試す」をまわし、今まで蓄積してきたデータと人間工学などの知見を融合し、アスリートのさらなるパフォーマンス向上と、一般の方の日常生活を向上させる商品やサービスを開発する場所です。トップアスリートのために開発された商品は、快適性を追求しながら蓄積されたデータをもとに付加価値をつけて一般向けへと商品化されます。



ミズノ所属：萩田大樹選手 2010(H22)年 高学部卒



ミズノ株式会社 大阪本社

ミズノスポーツロジーギャラリー(大阪本社1F)

また、スポーツ分野だけにとどまらず3、4年前からワークビジネスを対象にした商品開発も行っており、靴やジャケットなどを商品化してきました。スポーツで培った知見でできるものはどんどんやろうという思いからです。お客様にはご迷惑をおかけしてしまいましたが、コロナ禍で必要となったマウスカバーも水着などスポーツウェア素材を使ったことで、フィット感があり、通気性、速乾性もあって、大きな反響がありました。今後もデータをもとに基礎的な技術とクラフトマンシップを大切にしながら、機能にこだわり、一味違う商品開発にチャレンジしていこうと思っています。

テレビや劇場の仕事が止まってしまったなか、リモート配信を使って、見せ方や面白さの伝え方を考えています。

ドリフターズやダウンタウンを見て育ち、中学生の時に心齋橋2丁目劇場で『すんげー! Best 10』に出演する千原兄弟、中川家、メッセンジャーなどにあこがれた橋本さん。2005年に銀さんと銀シャリを結成。

2016年にはM・1グランプリ優勝を果たし、東京進出でさらに人気を博す橋本直さんに、コロナ禍がお笑い界に与えた影響について伺いました。

中学部から大学まで関西学院ですが、お笑いはいつからやりたかったんですか。

中学で入学してから受験がなかったので、将来を考えるタイミングがなくて、お恥ずかしい話ですが、大学に進学できるかどうかとなった時に少し考えたのですが、結局、大学に進学できたので、また4年間、将来のことを考えずにいました。就職活動が始める時に、就職した自分を想像してみても、後に仕事が辛くなった時、テレビの世界に入っていたらどうなっていたんだろうと後悔することのないように、一回やりたいことをやってみようとしてテレビの世界に入ったんです。

芸人の仕事は、コロナ禍でどのような影響をうけましたか。

テレビの仕事は全て止まりましたし、商店街とかを歩くロケ番組が多かったのですが、それも全部止まりました。給料制ではないので、出演した分しかお金は入らないので、厳しいです。ただ、会社も色々と考えてくださっていて、オンラ

インとかズームを使って、ファンとトークをしたりゲームをしたりするようなこともやっていたり、家にもできる仕事を考えてもらっていました。その後、劇場

が再開して無観客ですが、配信のライブもやらしてもらいました。エンタメ界では、オンラインの利用はいずれ必要になると思っていたので、早めの未来が来たという感じですね。ちょっと加速した感



イベント会場で司会者と

じはありますけど。今後、オンライン環境での仕事が増えるということでしょうか。

テレビや劇場でお客様の前で生だからこそ伝わる笑いの空気があります。お客さんも生で見る楽しさというのが絶対あって、それは何にも変えられませんが、今後、配信もどんどん増えるでしょうが、そういうテレビや劇場の生の面白さを出せるようになったらいいですね。逆に、配信でしかできない見せ方や面白さはもっと追求していかないとけないと感じています。

テレビではアクリル板を挟んで漫才をする新しい姿も見られましたか。

アクリル板の感じをどう笑いにするか。アクリル板をどういじるかみたいな感じはありました。お客さんもイレギュラーのこの事態を好意的に楽しんでくれるという空気がありましたね。みんな期間限定のものやと思ってやっていたので、楽しもうとしていた感じはありました。た

だ、逸脱しすぎないように気を付けていました。ふざけすぎて、行き過ぎると本筋がなくなるので、さわりだけにしてちゃんと漫才もしようと思えました。コロナが終わって前のようにできるようになった時にフォームが崩れていたら嫌やなあというのがあります。

一日も早く、普通に舞台上で漫才ができるようになると思いますね。

今までは舞台が最強だと思っていました。テレビの仕事はなくなることがあっても、舞台は最後までなくなるならない。漫才師として直接お客様を笑わせること

ができれば、劇場の出演はなくならないので、舞台上で立っているのが一番強いと思ってきました。それがコロナによって価値観が逆転しました。YouTubeの方が仕事になるとなって、びっくりしました。銀シャリさんもYouTubeをされていますね。

コロナがきっかけで始めたわけではなく、2年前くらいから始めています。単独ライブを47都道府県でやるというプロジェクトがあつて、各都道府県の漫才を作ろうというのがきっかけです。ライブを行う時に、地元の漫才をやったら喜んでもらえるんじゃないかと考えました。生の舞台を見てもらうためのYouTubeだったんですが、今後はライブなどが再開された時に来てもらえるように、興味を持ってもらうきっかけにもしていけないといけないですね。そもそも漫才に興味のない人にも見ってもらえるようなことができたらいかな。リモートの配信だと、今まで主要都市に足を運べなかった方にも見てもらえますし、安全に生で見てもらえるようになって再開した時も、リモートの長所を残しながらやっていけたらいいなと思います。

コロナ禍の中、自粛中はこのように過ごされていますか。

めちゃくちゃディフェンシブな人間です。手は荒れるくらい洗っていますし、外食



©YOSHIMOTO KOGYO CO.,LTD.



若手対象の交流イベント (KG Youth Reunion Party) の一コマ

KG Youth Reunion Party
35歳までを対象にした交流イベント。3年前から大阪で開催しその後、東京、名古屋、福岡でも実施しています。ビジネスネットワークを作りたい人や友人やパートナーを求めて、さまざまな方が参加しています。今年は実施を見送っていますが開催の際は同窓会ホームページやSNSでお知らせする予定です。

関学卒業の方は、こういう時こそ柔軟な発想やアイデアで、周りの皆さんをハッピーにできるような気持ちの熱い人が多いと思います。この状況で、僕もなんとかツッピースを届けられるように、一生懸命仕事をやりたいと思っています。

関学OB・OGにメッセージをお願いします。

もほとんど行くことなく、自炊をしています。家に帰ったら、まず買い物したものを消毒して、自分もすぐ風呂に入って洗濯機して、疲れ果てています。人に移してはならないという思いがありますし、無茶苦茶気を付けていますね。僕は家にいるのが苦にならないので、過去のDVDとか本とか、インプットする時間が取れたのは良かったですね。後はリモート飲み会をして先輩後輩とよく話していましたね。熱くなって3、4時間経つてもありました。いろいろなアイデアが出ていたので、コロナ明けはパワーアップしているように頑張ります！

コロナ禍でネットがより身近なものとなりました。 暮らしのスタイルが変化し、 パーチャルをリアルに近づけることが大事です。

関西学院中学部に入学以来10年間、関学で学び、1982(S57)年京阪電気鉄道株式会社(現・京阪ホールディングス株式会社)に入社。現在、同社取締役常務執行役員及び、株式会社京阪百貨店代表取締役会長、株式会社ビオ・マーケット代表取締役社長。

流通業界を知り尽くした上野正哉氏にコロナ禍における流通業界の現状と今後の展望をお聞きしました。

流通業界ではコロナ禍の影響はどのように出ていますか。

緊急事態宣言で、ショッピングモールや百貨店は閉館となり、うちだけではなく業界として厳しい状況でした。とはいえ、食品は営業していき、お客様の来店頻度は落ちて滞在時間も短くなっているのですが、買いための傾向により単価は上がり、食品関係は好調という不思議な事態ですね。

今後、ネットの在り方も変わっていくことですね。

もちろんリアルが最高だと思っています。ただリアルは手間がかかるので、パーチャルで買うわけですね。パーチャルがリアルを超えることはありませんが、もっとリアルに近づけることはできます。今はまだ半分くらいというところでしょうか。今までは、店舗でリアルなものを見て確かめることもできましたし、リアルと比較しながらパーチャルで購入するというやり方でしたが、コロナ禍でリアルが消えてパーチャルだけしか残っていませんから、いかにリアルに近いパーチャルを提示できるかが大事になってきます。コロナ禍によってネットがより身近なものとなりましたし、まだ今の状況が続くでしょう。さらに、この先にもこういうことが起こることも考えられます。今回、ネットが身近なものになり、便利さがわかってきたので、進化せざるを得ないマーケットですね。

パーチャルは便利ですが選択肢が多くて、選ぶことが結構ストレスにもなるんです。その点、ビオ・マーケットが毎週お届けする野菜セットは、全国の300農家さんと契約していて、旬を届けることができます。農家さんにとっても年間一定の額で取引を行いますので、メリットもあり、品質も保てます。商品の購入だけでなく、調理の仕方や産地と会員をうまくつなぐ機能を持たせながら、



形のないテクノロジーでリアルに近いパーチャルを作っていくことが、これからの課題です。リアルメインでパーチャルを見ていたのが、パーチャルからリアルを見るという時代になっていくのでしょうか。

コロナ禍は消費者の暮らしも変化させたのでしょうか。

果ごもり消費によって、料理キットや生活雑貨などの売上は好調です。家で何かを作ることに目覚めた方も多いのではないのでしょうか。スーパーで安い惣菜を買うよりも自分で作ってみようとか、またシエフメイト的なものが売れるようになってきます。まさにステイホームで暮らしが変わってきたように思います。生活スタイルが変わってきて、今までは外で新しいものを見たり体験したりしてきたものが、今ではネットで見て実際にそれをやってみることに代わり、そしてそれが面白くということもわかりました。自粛解除になった今も、自粛中にやりはじめたことをやめて前の生活に戻るといった感

じではありません。暮らしの変化に伴い社会はどのように変化していますか。

暮らしのスタイルが変わって、購入するものも変わってきました。外に着ていく洋服より、生活雑貨に移っているかもしれませんね。6月に発表しましたが、渋谷に「IKEA渋谷」がオープンします。世界規模で商談などが止まっている中、IKEAとはコロナ禍でも変わらず誘致の商談を進めることができました。郊外型のIKEAとは少し違って都心部の店舗ですので、ショッピングの店舗構成とし、ネット注文を中心に展開していきます。

京阪百貨店の話をさせていただくと、地元のお客様が増えたのもコロナ後の姿の一つでしょうね。京阪百貨店は店舗が郊外にあります。今までは会社帰りに都心部の百貨店に寄られていたお客様が、地元で買うようになられているようです。コロナ禍が落ち着いてもリモートで

そんな中、新しく始めたことはありますか。

新しく始めたというか、社会全体がネットを活用した生活スタイルになってきたため、eコマース(ネットを使った商品取引)の拡充を図りました。実は、コロナ禍で業績の上がっている事業があります。100%有機JASの野菜や有機加工食品等を取り扱うビオ・マーケットです。オーガニックを求める全国約7500人の会員に宅配を行ってききましたが、3月末のステイホームから拡大の兆しが見えたのでSNSなどを利用して広告したところ、会員数が東京を中心に1000人ほど跳ね上がりました。これを機会に、産地から直接、消費者に届く産直eコマースなどもできたらいなと考えています。今も産地から仕入れているのですが、より新鮮なものを、品質を保ちながら届けられるような仕組みにしたいですね。

ただ、ネットを使う頻度が上がると、ネットが果たして使いやすいかという疑問点もでてきています。情報が多すぎる、品質の見極めが難しいという意見もありますし、私自身も会議などで使用してもテクノロジーが発達している割に回線が途切れるなどの問題点もあり、まだまだネットには改良して進化できる先があると感じています。

の仕事が全くなくなることはないでしょうし、今後もこの状況は続くでしょう。社会の変化に合わせて流通業界はどのように変化しますか。

これまで、日本経済は各企業が競争することで発展してきましたが、今後は無駄な競争はなくなって業界を超えた得意技を組合せた商品作りが出てくる時代になっていくと思っています。例えば、無印良品イオンモール堺北花田は、無印良品において、初めて生鮮食品などの食品売り場を取り扱う店舗で、想定以上の集客があり、本来の生活雑貨にも波及し、好調です。これは、生鮮食品に強い京阪百貨店と無印良品が組んだ形ですが、今後はもっと違う業界と流通の組み合わせも促進されていくと思います。コロナ後はこのような社会連結が増えるでしょうね。

この10年ぐらいで、好調な経済に支えられてきた今の業種業態が大きく進化してなくなっていくだろうと思っていますが、コロナによって3年くらい早まった感じはありますね。そのためにはアイデアやノウハウ、技術を持ち、興味をもたれる発想が必要です。相手の立場になつて相手が喜ぶことを考えながら自分も一緒に成長できれば幸せという中学から関西学院に通って学んだ「Mastery for Service」の精神です。



京阪シティモールにて商品棚を確認



渋谷スクランブル交差点に「IKEA渋谷」がオープン

祇園という場所柄、自分のところだけ という考えではやっていけません。 地域全体で動く面白いアイデアも出てきます。



客室 梅見(うめみ)の評庭

京都・祇園の白川沿いに建つ「料理旅館 白梅」。数奇屋造りの建物、手入れの行き届いた庭、季節のしつらえなど隅々にまで心を感じる宿は、日本人はもちろん、外国人観光客にも愛されてきました。コロナ禍によって打撃を受ける旅館業において、その現状と今後について女将の奥田朋子さんにお話を伺いました。

「料理旅館 白梅」を継がれてどれくらいですか。

24年になります。祇園で育って、京都から出てきて大学受験では京都以外のところを探しました。関学のキャンパスを見学させて頂いたら素敵で。ただ母が宝塚歌劇の大ファンだったので通学できることもお見通しで、結局京都から出ることは叶いませんでした。就職でも一度、家を出ることを考え、父が外の世界を見ることも大切だと言ってくれたので、全日空に就職いたしました。客室乗務員の仕事は、意外と旅館の仕事と時間感覚が同じで、ございまして、クローズした小さな世界の限られた物でどのよう



にサービスをするかを考えるとこちらも共通しております。微に入り細に入りおもてなしを追求することを諸先輩方からしっかりと学ぶことができ、今の仕事に活かされております。何より少し離れて京都を見ることができ、京都の良さを再確認することができたのは良かったです。

日本人はもとより海外の方にも人気ですが、お客様に対して気を付けていることはありますか。

ご予約時のリサーチは大切にしております。ご予約の成立までに6〜7回は、メールのやり取りをします。そのやり取りを通して望みや嗜好がわかりますので、こちらもおもてなしの準備を行い、しつらえができます。祇園は、一人のお客様に対してとことん面倒を見るというやり方でして、お料理、お酒、お好みの物を整えてお待ちするのがお茶屋文化です。ここも元々はお茶屋だったので、そういうおもてなしを行ってきまして。外国のお客様は、日本人と同じおもてなしを求められます。特に物より体験の

価値が高くなっておりまして、157年経つこの建物も、日本家屋の安らぎを感じていただけようです。ここは女の町なので、薩長、新選組などの時代に刀を振り回さないように鴨居は低く造られ、曲がり角が多く、人と会わないように、逃げやすいようにと考え抜かれています。身の安全と美しさを兼ね備えた素晴らしい日本文化を体験していただける街でございまして。

そんな祇園にも、
コロナ禍の影響はでていますか。

4月の1週目が終わった時点で予約は全て取り消し。4月16日〜5月末までお休みをいたしました。6月から再開しております。ここは大型の旅館と違って、部屋数も5室のみです。お部屋にお風呂もついておりますが、他にご自由にお使い頂ける貸切の家族風呂もあり、衛生面に配慮してご利用の度に清掃、お湯を全て入れ替えてお使い頂いております。お食事はお部屋出しですので、お客様はチェックインからチェックアウトまで、客室係と女将の私以外の人に滞在中逢うことなくお過ごし頂くこともできます。コロナ禍でさらに、動線が重ならないようにご案内して今以上にプライバシー感がでております。今後は「泊食分離」を進めようと考えていまして、試験的に2月から始めております。この辺りは食事ができる場所もございまして

で、連泊の方は、朝食、夕食をどのようにも組み合うように考えています。地域で経済を回すことが大切で、地域が活性化しないと個別の商売が成り立ちません。街の魅力、京都の魅力を高めることがこれからは必須ですね。地域の魅力を高めるための動きはありますか。

祇園は隣近所との距離が近い場所です。新しく入られる方も地域愛が強い方が多く、協力的でございまして。私も身も景観保全と伝統文化の継承と革新のために活動している祇園新橋景観作り協議会というところで代表をしておりますが、各エリアにそういう協議会がございまして、タイアップしてやることもあります。これからはより一層、協力して魅力を発信していかなければなりませんし、京都市も積極的にバックアップしてください。又、京都府主催の「新型コロナウイルス感染症対策危機克服会議」があり、様々な分野、職種の人意見を出し合っています。個人の力でできることは限界がありますが、もともとポテンシャルのある街なので地域全体で動く面白いアイデアも出てきます。

ホテル・旅館業としては
新しい取り組みはありますか。

ホテルは去年から少し飽和状態の感じがありました。旅館は実は全然違う括



季節の八寸 白川沿いの客室 梅見(うめみ)の評庭

りのものです。値段だけで比べると太刀打ちできないですが、ホテルは空間をお売りし、旅館は時間をお売りするといふ考えです。京都は多少高くても本当の経験ができるならいいと言われる方も来られますので、お茶屋のおもてなしを突き詰めていこうと思っております。京都は農耕型の街で同じ場所でも長い間住み、商いをし土地を耕すようにその街の魅力を高め、そしてそれによりまた高くなる、という所です。今日のコロナ禍の様に実りの少なくなる時もありますが、今は土を肥やす、または問題のあった場所は土壌改良を行い、京都のポテンシャルを高める絶好のチャンスと



昔ながらのお茶屋の街並みの残る祇園新橋伝統的建造物群保存地区
春は桜、夏は虫、秋の紅葉、冬の梅、梅と四季折々の風情を楽しむ白川沿いがあります

思っております。例えば少し前は京都はインパウンドが多く、オーバーツーリズム気味で風情が無くなったと言われることが度々ありました。それ以外にも街の雰囲気と風情を保全する為、新規に事業される方も看板や暖簾、屋外広告の大きさや色の取り決めを行うなど課題は多くあります。ネットやガイドブックなど、今はたくさんさんの情報が手に入りますが、地域でしかわからないこともたくさんあるのが京都の魅力です。私どもでも地元の人と密接に連絡を取り合い、お越しになられたからこそ差し上げられる情報を大切にしていきたいなと思っております。

音楽はこんな状況でも必要とされていると感じます。次の演奏会を待っていてくれる人がいることが、モチベーションになっています。



ニューイヤーコンサートで「ラプソディ イン ブルー」を演奏

童謡「赤とんぼ」の作詞をした三木露風の生誕地であるたつの市で活動する西播磨交響楽団。龍野青年会議所がクラシック音楽を身近に感じてほしいと立ち上げたオーケストラで、地元で愛され、定期演奏会には1000人の観客を集める。その代表を務める小田英夫さんにコロナ禍での交響楽団の現状と今後について伺いました。

西播磨交響楽団は、どのような楽団ですか。

1996年2月に設立され、西播磨というエリアを中心に活動する市民オーケストラです。練習は、毎週日曜日午後6時から9時まで行っています。団員は45名で、年代も中学生から70代の方まで幅広く、遠いところでは神戸や明石からも来られています。活動は、年2回、1月のニューイヤーコンサートと6月頃に定期演奏会を開催しており、約1000名が収容できる「たつの市総合文化会館赤とんぼ文化ホール」などを利用してしています。

発足のきっかけを教えてください。

たつの市は、童謡・赤とんぼの作詞を手掛けた三木露風の生誕地ということもあり、新しい童謡を発掘しようという主旨で、今から35年前に龍野青年会議所（龍野J.C.）の発案により「三木露風賞新しい童謡コンクール」というイベントが始まりました。10年ほど続けてきた中で、ここからさらに音楽文化を発展させていこうということになり、1995年に当時の龍野J.C.理事長であり、また関学の先輩でもあった伊藤充弘さんが、龍野のまちにオーケストラを作ろうという提案をされました。私自身もJ.C.のメンバーでしたので、一緒にやりましょうということになり、西播磨交響楽団をつくることになりました。10万人足らずの小さな町ですので、団員集めは、弦楽器特にヴァイオリンが揃わなくて難しかったですね。メンバーはいまだに苦労しているところがあったり、弦楽器が20名に対して管楽器が25名と、オーケストラとしてはややアンバランスな状態です。

コロナによってどのような影響を受けていますか。

練習ができないと、まず団費が集められません。再開するとすると休みの間の団費をどうするのかとか、再開しても自分はまだコロナが心配なのでもう少し様子を見たいというメンバーもいて、いつもとは違う状況下で新たに決めなければいけないことが多いですね。

また、練習の際に各奏者間の距離を取るためには、広い会場が必要です。西播磨文化会館を使うことが多いのですが、こはわりと利用しやすく助かっています。2月後半から休んでいた練習を、7月から弦楽器と管楽器に分かれて再開しましたが、8月からまた休むことになりました。今後は1ヶ月ごとにコロナの状況を見ながら、またメンバーの意見を聞きながら決めていくことにしています。

演奏会も未定ですか。

本来は、6月に定期演奏会を行う予定でしたが、9月に延期、さらにそ

れも中止となり、現在は、来年1月17日（日）にニューイヤーコンサートを行う予定で準備を進めています。前半は、映画音楽などのポピュラーな曲を、後半は、ウィーン・フィルのようにワルツやポルカを演奏します。このような状況ですが、お客様からは、「演奏会を楽しみにしている」とお声をかけていただきます。地域活性化と地元密着の目的で始まったオーケストラということもあるでしょうね。設立当初から後援会もできて、発案者である伊藤先輩が後援会長を務めてくださっており、法人・個人会員合わせて250人ほどの後援会員がおられます。本当に地域の皆様に支えられていると実感しているだけに、このコロナの状態がこれからも続いて、観客の皆様と触れ合う機会が失われるのは不安ですね。

今後、オーケストラがとるべき対策などは考えられていますか。

西播磨オーケストラのような小規模のオーケストラの場合は、工夫次第で様々な活動ができるかなと思っています。練習も分かれてやっていますし、演奏会も状況に応じて小グループに分かれることもできますね。また演奏する曲も変えざるを得ないと思っています。コロナの間は、これまで選曲に上がっていたチャイコフスキーやラフマニフの交響曲など、編成の大きな曲は難しいかもしれません。この状況の中でやれる曲、そしてメンバーがやりたい曲、お客様に楽しんでもらえる曲、そのあたりの調整を図りながらプログラムをどう組んでいくか、おそろくどのオーケストラにとっても一番苦心されるころではないでしょうか。

演奏会におけるガイドラインなどはあるのですか。

明確なガイドラインはありませんが、他のオーケストラの情報聞きながら企画を進めていくことになると思います。ホール側のガイドラインでも入場者数はかなり制限されるでしょうから、例えばこれまでだと約2時間だったコンサートも、1時間ほどに縮めて午前・午後2回に分けて行うという案も出ています。今年のニューイヤーコンサートではほぼ満席になって、手こたえを感じ始めて



本番前の最後の舞台練習



毎日曜日の練習

ただだけに本当に残念です。先が見えない状況でモチベーションはどのように保っているのですか。

私自身一人のアマチュア・プレイヤーとして、この時期モチベーションを保つのは難しい部分もあります。普段は自宅でも練習しますが、休みが続くとなかなか楽器に触れなくなってしまうかもしれません。アマチュア・オーケストラの楽しみの一つは、限られた練習時間の中で、

メンバーたちと同じ空気を共有することです。それだけに、このコロナ禍の中でも自分たちの音楽を必要として、次回の演奏会を楽しみに待っている人たちがおられることは大きな励みです。

コロナによって、演奏形態やプログラム、客席など変わらざるを得ない部分があると思います。何事も初めて経験することはありますが、この変化や経験が、今後のオーケストラのレベルアップにつながるのではないかと期待もありますね。



獨協医科大学 准教授
中島 逸男 さん
1986(S61)年
高等部卒

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科専門研修指導医
同窓会栃木県支部長

国内外から集まる情報を Facebook上で共有して 医療機関の情報標準化の整備を。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によって日々の暮らしが大きく変わり、瞬く間に「コロナ禍」という言葉が日常のなかに溶け込んだ現在、この原稿を書いています。

令和2年とあって間もない頃、どうやら中国・武漢で新たな感染症が発生し拡大しているらしいという情報があり、また2月初旬にはクルーズ船の集団感染が明らかになり、1月末に沖縄県・那覇市の沖縄コンベンションセンターで開催された学会会場の側で見かけた大型クルーズ船が件のダイヤモンド・プリンセス号だと知りました。同時期には医療機関にも患者収容のためにベッド確保が必要との情報も入るようになり、当初2、3月に予定していた支部の総会と

懇親会も中止やむなしと判断するに至りました。

COVID-19の初期症状のひとつに「嗅覚や味覚の障害」が認められることもあり、また中国や欧米で対応にあたるた耳鼻咽喉科医が多数感染しなくなったこともあって、国内でも一時的な混乱がありました。が、はやい段階からFacebook

上のアカウントで有志の耳鼻咽喉科医によるCOVID-19の国内外の情報を共有できていたのは非常に有用でした。今後は各地域の保健所や医療機関の情報標準化の仕組みを早急に整備すべきで、次に突発的に増加する新たな感染症にも対応できるように期待したいと思います。



1月末に学会で訪れた沖縄県・那覇市の沖縄コンベンションセンターにて



学会で登壇する中島先生

現在のコロナ報道では増加する感染者数(患者数)に対するベッド数の話題が多いものの、重症化したCOVID-19の患者に対応するには、感染制御の観点から平常時の約4倍の医療スタッフの配置が必要になります(通常、重症患者を受け入れるICU: Intensive Care Unitでは24時間の1対一看護スタッフが対応)。つまりハコ・モノよりも、熟練したヒト(医療スタッフ)が求められており、また医療機関の宿命としてコロナ以外の各疾患にも対応するためにも多くの労力が必要とされています。そのため平時および緊急時にひとつの医療機関だけではすべての患者を受け入れるのではなく、各地域の感染状況に応じた複数の施設の機能分担が求められています。おそらく新型コロナウイルス感染症が完全に収束することは難しく、今後も一定数の発生が断続的に繰り返されると思われれます。しかしながらピンチは変革のチャンスでもあります。C.R. Darwinの教訓のようにわれわれもコロナ時代に迅速に適応し、同窓の皆さまに明るい未来が訪れるよう祈念しております。

ポプラ医療・看護・介護グループ
伊丹谷 五郎 さん
1969(S44)年
経済学部卒

08

高齢者の安全を守り、 心豊かな暮らしをお手伝いする介護の世界。 より強靱な介護集団へと。

新型コロナウイルスの収束の目途が立ちません(2020年7月現在)。各地の介護福祉施設でクラスター(感染者集団)が発生し、サービスの低下や停止を余儀なくされています。この事態は、慢性的な人手不足の介護業界に、どんな影響をもたらすでしょうか。

介護(福祉)業界は長年、国(公)により守られ、自ら改善・改革に取り組むことが少ない体質でした。しかし、コロナの到来によって社会が変わろうとしている今、介護の世界にも少なからず変化が訪れることでしょう。できる限り現場での業務の見直し(テレワーク・デジタル化・オンライン化など)は進めてい



くとしても、最も大きな影響は人材確保ではないでしょうか。介護とは高齢者の安全を守り、日々を心豊かに暮らしていただくためのお手伝いをするわけですから、究極のサービス業であると言えます。そのためには優秀な若者がスタッフとして加わってくれることが不可欠です。から、魅力的な職場づくりに本気で取り組まなければなりません。

介護施設を運営して15年。北摂地域(池田、豊中、箕面)で35ヶ所の事業所があります。750人の施設入居者、1500人余りのデイサービス・ショートステイの利用者が主なお客様ですが、コロナ禍ほど緊張した出来事は初めてでした。従来の感染予防に加え、徹底的な消毒など、より高度な処置の徹底はもちろんのこと、各施設においてもさまざまな工夫をしています。お客様のこれまで通りの暮らしを維持しつつ、感染者を出さない対策をスタッフとともに取ってきました。幸い、現在のところ、ゼロ!これに慢心することなく、スタッフは緊張感を持続し、日々、最善を尽くしてくれています。

「ピンチはチャンス」とよく言われます。いかにしてコロナウイルスと、そして変貌する社会と向き合い、危機的な環境にも適応しながら、新しい時代にふさわしい、より強靱な介護集団へと変貌を遂げていきたいと強く願っています。



10年前から取り組んでいる海外人材採用



ゆったり寛げるエントランスロビー
(上:特別養護老人ホーム、下:介護付有料老人ホーム)



大阪府池田市にある特別養護老人ホームポプラ

「SDGsかるた」の開発と普及。
関学同窓会のみなさんのおかげで、
このような状況でも乗り越えられました。

SDGs（持続可能な開発目標）は、私たち人類と地球が、より良い関係で長く共存するために、自然を大切に、未来に受け継ぐことを目指しています。17の目標を位置づけ、その中には、「貧困をなくそう」、「質の高い教育をみんなに」、「つくる責任、つかう責任」、「陸の豊かさを守ろう」、「平和と公正をすべての人に」などがあります。そして、目標を達成するには、全ての人々が参画する必要があります。参画するにはSDGsを知ることが必須です。知らないと参加できないからです。それで、わたしたちは、SDGsの教材としてSDGsかるたを学生を主体としながら、SDGs・生物多様性研究センターの研究者と共に開発しました。SDGsかるたは、読み札・絵札・解説書から構成されています。解説書は先進的で、教育的で、正確なものとなっており、SDGsのやさしい入門書ともなっています。読み札は、若い学生たちのセンスが表れています。プロの画家にお願いした絵札は、見るだけで、各目標



かるた作成会議
(監修の経団連自然保護協議会
石原博企画部会長を囲んで)



のメッセージが伝わってきます。ところが、本格的な取り組みを始めた矢先に、今回のコロナ禍の影響で米学出来ないなどの諸条件が重なり、このかるたの普及に設けたクラウドファンディングも思うように集まりません。そこで関西学院同窓会に相談したところ、日本各地の先輩から応援をいただきました。ありがとうございます。マスメディア関係で働いている先輩からは、テレビで学生が話をする機会を設けて下さったり、ラジオでも広報文を作成いただき、放送いただきました。さらに、SDGsのワークショップの依頼もいただきました。このような同窓会の方々の応援・支援にふれる中で、私たちは、関西学院大学のすこさ・スクラム力・先輩方の関学への「愛」を感じていきました。「関学っていいなあ」と感じていきました。SDGsかるたの開発と普及は、たくさんの方の協力がありました。これからもあります。しかし、関学同窓会のみなさんの応援・支援・やさしさを学生たちが学んだことは、学生たちにとっての「大きな収穫」でした。感謝です。これからも御支援をよろしくお願いします。



ベンチャー
ライク株式会社
代表取締役社長兼グループCEO
岡本 泰彦さん
1985(S60)年
法学部卒

世の中のニーズに合わせて変化をし続ける、
社会になくってはならない
企業グループとして。

新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動の縮小や教育機関においても休校措置等が進み、生活様式だけでなく、ビジネスモデルや教育手法の改革が余儀なくされております。私は、1993年に旅行の企画会社として現在のライク株式会社を設立いたしました。1998年に主に若年層の社会進出支援として総合人材サービス

に事業を転換し、2005年に東証マザーズ市場、2007年に東証1部への市場変更をいたしました。人生のどの段階においてもなくてはならない生活総合支援企業グループを目指し事業を展開した結果、現在では、保育・介護施設の運営において国内でトップクラスの事業規模となっております。

日々たくさんの方の気付きがありますが、改めて、当社グループのどの事業も社会になくってはならないものであることを痛感したことで、今後の経営戦略においても明確なビジョンを持つことができました。「社会に必要とされること」に徹底的にこだわって事業を展開し、その事業に従事する方々の社会的地位の向上と働きやすい環境づくりを推進してきました。私たちがとつて、これまで当たり前前にできていたことがなくなりました。

さらに、環境の激変により正解がわからない状況において、スタートアップから大企業まで、どの規模の会社においても事業を継続し拡大できるかは、ヒト・モノ・カネに依存する割合が減り、どれだけ工夫できるかになるため、私たちのようなベンチャー企業にとっては大きなチャンスです。



2019年4月19日 国際学部講義「ベンチャービジネス創成」



起業を志す学生との質疑応答

また、私たちが推進している働きやすい環境づくりには、主に業務効率化面でのデジタルトランスフォーメーションも含んでおりますが、これまでも導入して

私は今、ご利用者様に「評価いただきたい」私たちのサービスを世の中の当たり前前にできるよう、会社の規模を大きくすることに注力しておりますが、以前から推進しております世代・国籍・経歴を問わず活躍できる社会の実現に、また一歩近づけたと考えております。社会になくってはならない企業グループを目指す。コロナの時代においても、当社グループの考え方・行動は変わりません。ベンチャー企業として、既存事業においても世の中のニーズに合わせて変化し続けるとともに、新規事業も創出し続けてまいります。

関西学院中部 部長
藤原 康洋 さん

1981 (S56) 年
経済学部卒

11

教育の観点から、現状と未来展望を考える。
学校が果たす役割は、
共に学ぶ中で成長する場の提供。



青島キャンプ開会礼拝



甲関戦(甲陽学院中との定期戦)の剣道競技

性は変わらず必須なものであると考えています。

コロナ後の対面授業に関して一点。一斉授業が知識伝授の有効な方法であることに変わりはありません。しかし、学ぶ喜びや学びへの意欲は生徒間のやりとりが優れてもたらすものです。コロナ以前から模索されてきた二者のベストミックスが一層求められると感じています。7月、中学3年生の新聞投書に目がとまりました。「学校には学校ができることを突き詰めてほしい。『知識を伝達する』だけの授業を見直し、生徒同士が教え合い、議論し合い、そして学び合う。そんな機会がある授業にしてほしい。」オンライン授業を経験した今、生徒間のやりとりを求めるこの声は多くの若者の気持ちに代弁していることでしょうか。

思想家ブーバーは、人との関わりにおいて、他者を物象化する「我―それ」の関係性ではなく、かけがえのない人格として尊重する「我―汝」の関係性の大切さを訴えました。「Society 5.0」では、ICTによる学びの個人最適化の促進が期待されます。他方、もし個人

現形態の学校は、「Society 5.0」が迫るといわれる中、コロナ以前からその変革が期待されてきました。一部の学校でオンライン授業が導入されたこの春から教育のICT化が加速していますが、学校にとって、時代にあわせて変わる部分と変わらない部分との区別が今後ますます大切になると思われます。

性です。対面授業が長期間行われなかったために、その意義が浮き彫りになりました。それは、質疑応答などのやりとりに加えて、人と繋がっているという安心感であり、その中で共なる学びです。授業の場面にこだわらず、高めあい助けあう切磋琢磨や協働作業とおして、他者に出会い自分に出会いながら自らを作りあげていく。若者の成長にとって共同

兵庫県立ピッコロ劇団
森 万紀 さん

1997 (H9) 年
文学部卒

12

生への希求
今、演劇の生命力の根源が
はつきり見えてきた。



「ブルーストッキングの女たち」(宮本研作/稲葉賀恵演出)松井須磨子役

昨秋、「ブルーストッキングの女たち」(作/宮本研)を上演し、松井須磨子

を演じる機会を得ましたが、まさかこんな時代が来るとは……。大正時代、世界的に流行したスエイン風邪で、須磨子は最愛の島村抱月を亡くし、後を追います。今、あらためて考えさせられたのは、当時、芝居の興業がなされていたという事実。新型コロナウイルスがより身近に迫り、当時の人々の緊張感と、それを超える生への希求……舞台を求めた

演者、観客双方の日々に思いを馳せています。そして同時に、こうして演劇は古代から幾多の困難に直面しながらも、決して死に絶えることはなかったのだと希望をも感じます。

新型コロナウイルスが、人と人が温もりを感じ合う直のコミュニケーションを奪うことで、今、演劇の生命力の根源がよりはつきりと見えてきたように思います。演劇は、神の下で、演じる、観るという人間の原始的な要求と結びついています

が、この三者の交流、即ち分かち合いたいと願うことが、人間の生そのものなのだ。ですから、今思うようにそれができずとも、人間が生きている限り、演劇は生まれてくると信じています。

現在の試練は、人間が一方的に地球を占拠する時代の終焉を意味しているように思えてなりません。ノルウェーの劇作家イブセンは、100年以上前に、人間と自然の対峙を描きましたが、人間は、地球上の生物の一つに過ぎないという謙虚さをもち、他の生命体はもちろん海や風や岩の声を聴く必要が今以上にあるのだと思います。こうした視点に基づき真の「新しい生活様式」は、地球とのコミュニケーションに広がりを持たせ、また、この人類共通の経験は、必ず、次に生まれてくる演劇を、つまりは人間の生を豊かにするに違いありません。も



「小さなエイヨルフ」(イブセン作/鶴山仁演出)リータ役



「ブルーストッキングの女たち」(宮本研作/稲葉賀恵演出)より、劇中劇「人形の家」(イブセン作)ノラ役



生徒会引き継ぎ式 ~生徒会の橋を前に~

の孤立化が進むと、AIを含む「それ」の力によって人の物象化リスクが高まること懸念されます。「それ」の活用主体となるためにも、互いを「汝」として尊重しつつ人と共生する感性がますます必要ではないでしょうか。そのために教育が果たす役割は決して小さくありません。

日本相撲協会 木瀬部屋

宇良 和輝
さん2015 (H27) 年
教育学部卒

13

厳しい自粛要請のなか 体のコンディショニングを意識しながら 基本を大切に、関取を目指す。



宇良 [木瀬部屋]

1992年、大阪府寝屋川市出身。木瀬部屋所属。最高位は東前頭四枚目(2017年七月場所)。平成4年度生まれの関取を指す、いわゆる「花のヨシ組」の1人と言われていたが、怪我により序二段に陥落。2019年十一月場所に土俵復帰。2020年一月場所で全勝の序二段優勝を果たし、三月場所でも二段目で連続全勝優勝を飾った。2020年七月場所で幕下に昇進し6勝1敗で勝ちこし。

相撲界は、新型コロナ禍での外出禁止は厳しく守られていて、自粛という面では徹底していたと思います。自粛要請が解除された今も、不要不急な外出は控えています。自粛期間中の稽古に関しては、実践練習はすることができませんでしたが、それ以外の稽古はいつもと変わらず続けていましたので、気持ちの上ではあまり変化はありませんでした。部屋の生活も、外出は控えていましたが、コロナ禍によって何か新しく始めたこともありませんが、もともとそんなに自由がある生活ではないので、コロナ禍によって大きく生活が変わるという感じはありません。現在は、日本相撲協会から実践練習の許可が出たこともあり、より日常の稽古に戻りつつあります。相撲においては、基本を忠実にすることを大切にしてきましたが、ケガをしたことで、より一層、基本が大切だと思えるようになりました。昨年の秋場所から復帰し、今年の初場所、春場所では全勝優勝ができ、幕下に昇進できたことはすごく嬉しいです。ただ、過去の自分を超え、出世してこそケガを乗り越

越えたいと思っております。春場所は無観客で行われ、人によって色々感じ方はあるかと思いますが、僕にとっては気にするものがないので、むしろ集中することができました。ただ、七月は番付が上がっていて今まで以上に勝負がかかっていましたし、緊張感がありました。年間で取り組みが2ヶ月に1度、七番しかできないと思うと、一番一番の重みを感じて、毎回緊張するのですが、次の場所に向けてもしっかりと膝のコンディショニングを整え、リハビリを行い、しっかりと足が動くようにしていきたいとただだと思っております。

目標である関取になるためにも、体のコンディショニングを意識しながら、基礎を大切にして毎日を積み重ねるしかないと思っています。七月場所は、コロナ対策をとりながら名古屋から国技館へと変更されましたが、気持ちを切らすことなく、6勝1敗で勝ち越すことができました。

今後も、応援してくださる皆さんの期待に応えられるように、しっかりと膝のリハビリも頑張り、元気な姿を見せたいと思っています。幕下の取り組みも、BSの放送で映りますので、ぜひテレビを通して応援していただけたらと思います。

関取を目指して頑張りますので、これからも応援をよろしくお願いします。